

令和8年度 第1回高岡市DX推進会議 議事録

1 日 時 令和8年8月5日（水）13時30分～15時00分

2 会 場 高岡市役所車庫棟 会議室

3 出席者 出席委員8名、オブザーバー1名

4 会議次第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 委員の紹介

(4) 議事

- ・高岡市DX推進アクションプランに係る令和7年度の取組実績及び

- 高岡市DX推進アクションプラン改定（案）について

- ・高岡市のデジタル化に関するアンケート調査結果

- ・高岡市DX推進方針の総括と次期高岡市DX推進方針の骨子（案）

(5) 閉会

.....
○以下は(4)の発言要旨

※意見と回答はその趣旨を変えない範囲で要約してあります。

(4) 議事

○事務局より資料内容説明

- ・資料No.1 高岡市DX推進アクションプランに係る令和7年度の取組実績及び

- 資料No.2 高岡市DX推進アクションプラン改定（案）について

● 座長

高岡市DX推進アクションプランに係る令和7年度の取組実績及び高岡市DX推進アクションプラン改定（案）について、ご意見を伺いたい。

● 委員

アクションプラン改定（案）について、2点伺いたい。1点目はスマホサポーター養成講座について、これは参加者がスマートフォンの使用方法や活用方法を学ぶ講座ではなく、参加者がスマートフォンの使い方を教えたり指導する人を育成する講座を開催するというのか。2点目はふるさと住民アプリについて、より具体的にはどのようなことができるアプリなのか。

● 事務局

スマホサポーター養成講座については、ご認識のとおりスマートフォンをより活用するための講座ではなく、友人や家族など、身近な人にスマートフォンの使い方を教えることができる方を養成する講座である。スマートフォンの使い方を教えるにあたっての心構えや教え方を学ぶ講座を予定している。ふるさと住民アプリについては、国のふるさと住民登録制度に市がモデル事業として採択されており、その制度の中において国から提供されるアプリである。このアプリは市外に在住する高岡にゆかりのある方などに登録してもらうことで、高岡市の情報得られたり人材マッチングなどの機能が盛り込まれる予定である。

● 委員

デジタルハブアプリ（Kintone）について、市民・事業者等に対する情報提供等の手法を見直すところがあるが、具体的にどのような活用を想定しているか。

● 事務局

具体的な使い方については現在、構築・検証中であるが、市が保有している情報を関係者に提供する場合の情報共有ツールとしての活用を検討中である。

● 委員

外部クラウドサービスを利用する場合における情報の管理及び取り扱いの考え方は整理をして

おく必要がある。

- 事務局
Kintone は ISMAP 認証を受けているクラウドサービスであり、基本的に問題はないと考えている。ただし、ご指摘のとおり考え方の整理は必要であるため、今後、検討してまいりたい。
- 委員
災害対応力の強化として、通信インフラの確保は非常に重要である。いざという時に使える体制を整えるため、スターリンクの設置を検討してはどうか。
- 事務局
スターリンクはランニング経費が高額であり、費用対効果の面で課題がある。災害対応のための通信インフラとしては、高岡ケーブル様に地域 BWA の整備などにおいてご協力いただいているところであり、それらを踏まえながら検討してまいりたい。
- 委員
ふるさと住民アプリについて、このアプリで機能として実装されるものは既に市で提供しているサービスと重複しているものはあるのか。もしあればどちらを使えばよいか混乱するので、すみ分けなどの整理が必要ではないか。
- 事務局
市では TAKAOKA アプリを提供しており、その機能の一つとして担い手のマッチング機能がある。この機能についてはふるさと住民アプリの人材マッチング機能と重複すると可能性があるため、ふるさと住民アプリの仕様の詳細が分かれば取り扱いについて検討が必要である。
- 委員
中田地区で地域公共交通システムのノックアルが運行されているが、ドライバーの担い手が年配の方に偏り、若い方の参加が伸びていないという現状がある。それを解消するために若手向けの説明会を開催されていることは承知しているが、仕事などの事情があり見通しは困難となっている。これについて何かしら対策はあるか。
- 事務局
地域公共交通システムは、運転手の担い手確保など、様々な課題がある。地域から相談があれば随時対応しており、課題に対して効果的な対応策があれば引き続き、情報提供をしてまいりたい。
- 座長
高岡市 D X 推進アクションプランの改定（案）について、皆様ご了承いただけたということによろしいか。
- 委員
了承した。

○事務局より資料内容説明

- ・資料No.3 高岡市のデジタル化に関するアンケート調査結果
- 座長
高岡市のデジタル化に関するアンケート調査結果について、ご意見を伺いたい。
- 委員
デジタル化に関するアンケートの回答依頼はどのような手法で周知したのか。
- 事務局
市のホームページ、市民と市政、各種 SNS（市公式 LINE、X など）において周知した。特に公式 LINE で発信した後に回答者が大きく伸びたため、市公式 LINE 経由で回答された方が大多数を占めているという認識である。

- 委員
市公式 LINE の利用者は多いが、市公式 LINE には多くのメニューがある。どのメニューがどれほど使われているかなど、さらに一段深掘りした質問をすることで解像度が高まるのではないかな。

○事務局より資料内容説明

- ・資料№.4 高岡市DX推進方針の総括と次期高岡市DX推進方針の骨子

- 委員
次期 DX 推進方針の策定にあたっては、目標とする何かしらの数値指標を設定し、効果を見るべき。ただし、KPI とするとその数値の達成が目的となってしまうので、達成を目標としない継続して追っていく数値の設定などの工夫が必要である。
- 事務局
現行方針の総括に記載している評価については、各事業担当課の自己評価である部分は課題であると認識している。数値指標の設定については今後検討してまいりたい。
- 委員
今後のアクションプランにオンデマンドバスの計画は入ってくるのか。
- 事務局
現在、エリア設定について運行事業者と協議を進めているところであり、今後掲載してく可能性はありえる。
- 委員
デジタル人材の育成について、デジタルスキルについての記載があるが、スキルだけでなく「マインドセット」も重要でないか。また、デジタル人材については民間においても重要である。デジタルを学ぶ場の創設など、可能であれば検討いただきたい。
- 委員
デジタルサービスをフル活用して生活している人をイメージできるよう視覚的に可視化し、発信することで年配の方などデジタルが得意でない人にも興味関心を得られるのではないかな。
- 委員
これからはデータ基盤が重要になると考えられる。特に人のデータ基盤が重要と考えており、その情報を横連携して活用することが今後の DX のキーポイントとなる。データの基盤をどう整備するのか検討してもらいたい。
- 座長
骨子案にも記載してあるとおり、社会情勢の変化に合わせて柔軟に見直すことは非常に重要である。計画期間中であっても、変更や見直しは大前提であり、それを仕組みとして組み込むべき。
- 事務局
これにて、閉会とする。

以上